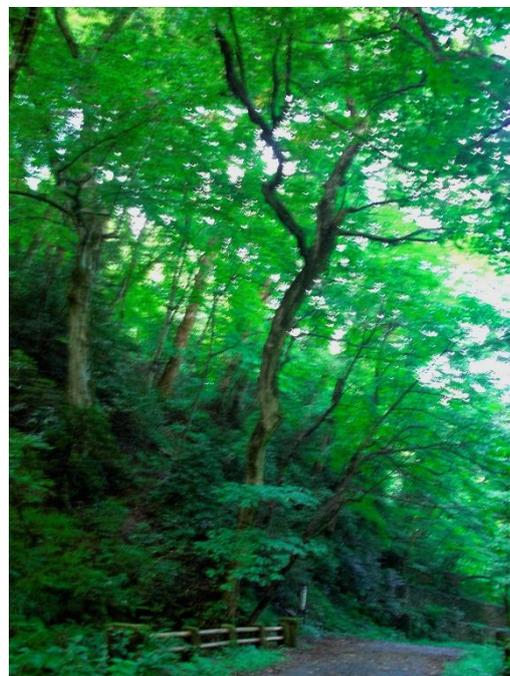


「北ハケ岳白駒池のコケ」

(1676)Y/Y

遊山歩「北ハケ岳 20160825-26」 https://youtu.be/eaMTPns_9lk で写真を沢山紹介していただきました、今回は白駒池周辺のコケの森の話をさせていただきます。

○コケはなじみ深い植物：リオオリンピックでは日本選手の大活躍により“君が代”を何度となく耳にした方も多かったと思います。君が代の一説に“苔のむすまで”と歌われています、この解釈には諸説色々ありますが“古いものが土となり新しいものを生み育て繁栄しましょう”、“子を育て繁栄していきましょう”と紹介している書籍もあります。これはコケ本体の成長の仕方が樹木みたいに幹が太って行く成長ではなく、先端が伸び続け、先端が伸びるにしたがい古い部分は枯れて分解し腐葉土となり、保水や養分の供給源として自身の成長に役立つ、そんな“コケの高潔な生き方”からきているのかなと私は思います。



イヌシデの原生林

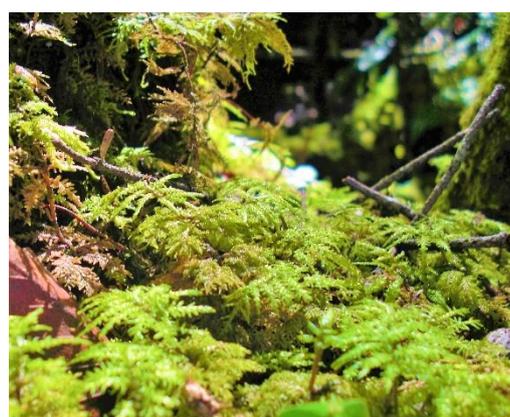
○日本人の感性とコケ：北方文化博物館の日本庭園を覗いているとなんとなくホットするような心境になりませんか。日本庭園にコケは付き物ですが、私たちは庭の何か一ヶ所を凝視しているのではなく、庭のコケが放すぼんやりとした「透き通るような緑」に風情を感じているみたいです。この「透き通るような緑」に見えるのは、コケの葉の厚さは1細胞分しかない為に光が通り易く透き通るような緑に見える、この淡い色合いが私たちの感性を程よく刺激するのが原因かなと思います。



痩せている樹木

○日本の自然環境とコケ：日本の降水量の多い多湿な気候はコケの生育に適していて世界の約10%にあたる1800種、ハケ岳では485種のコケが見られ白駒湖周辺は日本の貴重なコケの森に認定されています。(日本蘚苔類学会)

○手軽に楽しめる標高2200m白駒池周辺のコケの森原生林に囲まれたコケの森には簡単には行けないものですが、白駒池のコケの森は駐車場から5分も歩けば到着します。この森はハケ岳の火山活動が作った



透き通るような緑色のコケ

大地で、土の層が少なく栄養分が乏しい為木々の幹は
一様に痩せています。しかし幹が痩せている分林床に
は太陽光が、更にこの地域は日照時間が長いなどがコ
ケの生育環境を助けていると思われます。痩せた大地
ですが地面や木々に付着したコケは土に代わって水分
を蓄え木々はそんなコケをより処にしながら世代を重
ねた森、古代の森へ迷い込んだような気持ちを手軽に
楽しめる森です。

○秋葉区の原生林（おまけの話）

原生林が残っている地域は少なくなってきました
が、秋葉丘陵には原生林がありますので紹介します。
白玉の滝付近の十ヶ沢橋脇に樹齢約 100～200 年の
イヌシデの原生林約 0.3ha があります。白玉の男滝横
の佐久那殿神社の社叢林として保護されてきたそう
で、分布の北限に近く希少な林で天然記念物に指定さ
れています。



白駒池湖畔



白駒池入口 すぐにコケの森



標高 2200m 白駒池



林床に光が届くコケの森

（おわり）